

令和4年度下半期
第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
評価表（大見出し6項目）

※令和5年1月31日時点情報に基づく評価資料です。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(1) 自立支援、介護予防・重度化防止の推進

評価項目	分野	年間目標値		上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
		①要支援認定者の状態維持率（KDB健康スコアリング） *令和3年度実績値	介護	要支援1	58.0%	54.8% (*)	
要支援2	58.0%	56.6% (*)		56.6% (*)	56.6% (*)		
目標値は未達成。令和3年度に市の課題として把握した口腔機能についての事業を実施できた。 【参考】 認定率の推移（令和4年度10月末の時点） 要支援1 2.6%（前年比+0.1%） 要支援2 1.9%（前年比 0%）							
②地域はつらつ講座実施回数 ※年間合計	介護地域	35回		11回	8回	19回	B
目標値は未達成。感染対策を行いながら講座を開催し、令和3年度と比較すると講座の回数を増やすことができた。 【参考】 令和3年度 年間実績値 11回							

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

B

担当部署評価

要支援認定者の状態維持率については、令和3年度の実績値であるが、目標値を達成することができなかった。なお、要支援1と要支援2の認定率は、令和元年から大きな増減なく推移している。

地域はつらつ講座においても、目標値には届かなかった。しかし、感染対策を行いながら、講座を令和3年度の回数よりも多く開催することができた。また、令和3年度で把握した課題（口腔機能の低下）について、改善に向けて手掛けることができた。令和5年度も地域団体への周知を行いながら、高齢者の介護予防に取り組む地域づくりを継続していく。

評価委員会評価

要支援認定者の状態維持率については、KDB 健康スコアリングの実績値が翌年度の発表となるため、要支援1と2の認定率についても、モニタリング指標として併記してほしい。

地域はつらつ講座においては、老人クラブや自治会等への周知を行い、協力を得ながら、介護予防の取り組みをさらに広げてほしい。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(2) 介護給付等対象サービスの充実・強化

評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
③看護小規模多機能型居宅介護事業所数 ※累積値	介護	1 か所	1 か所	1 か所	1 か所	A
		目標値は達成。事業所の運営状況を定期的に確認し、適正な事業運営の継続を確認できた。				
④住宅改修点検率 (点検数/住宅改修件数) ※年間合計	介護 住まい	3.0%	0%	4.0%	4.0%	A
		目標値は達成。引き続き、判断に迷うケースについては関係者に適宜確認をし、適切な住宅改修となるよう努める。				

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、事業所の運営状況を定期的に確認し、適正な事業運営の継続を確認できた。

住宅改修点検率に関して、令和3年度は実施することができなかったが、令和4年度は上半期に事前準備を行い、下半期に感染対策を行いながら訪問調査を実施できた。適切な住宅改修となるように今後も努めていく。

要介護状態となっても、住み慣れた地域において継続して日常生活を営むことができるよう、地域における継続的な支援体制の整備を図っていく。

評価委員会評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所については、事業所を整備後、事業所が適正に運営できているかについての評価を中心に行ってほしい。適正な運営状況の評価のひとつとして、運営推進会議でのサービス提供内容の確認等を今後も継続してほしい。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進 下半期実績値

(3) 在宅医療の充実および在宅医療・介護連携を図るための体制の整備						
評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
⑤もーやっこネットワークシステム 登録患者数 ※累計値	介護 医療	1,885人	1,777人	1,881人	1,881人	A
		目標値を達成。令和4年度も令和3年度と同程度の登録患者数の増加がみられている。				
167件		239件	243件	243件	A	
目標値を達成。介護事業所の登録件数は令和4年度上半期の実績値239件から微増している。						
87,933件		69,942件	74,419件	74,419件	B	
目標値は未達成。継続的に、半年あたり約5,000件の投稿件数があり、適切に運用できている。						
⑥在宅医療介護 相談件数 ※年間合計	医療	270件	145件	63件	208件	B
		目標値は未達成。相談件数は安定し、継続的な運用の成果が見えてきている。				
⑦地域住民の 普及啓発 (出前講座)件数 ※年間合計	医療 地域	26件	7件	2件	9件	B
		目標値は未達成。感染対策を行いながら出前講座を開催できた。地域住民へ在宅医療・介護連携の周知は行えている。				

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

B

担当部署評価

在宅医療介護連携推進事業における情報共有ツールを利用し、新規事業者及び既存事業者についても利用が促進できており、適切に運用できている。今後も在宅医療・介護関係者に関する相談体制の構築や、地域住民への在宅医療・介護連携の周知を継続していく。

評価委員会評価

【目標値の修正】

もーやっこネットワークシステム投稿件数について、年間目標値の設定は「平成30年度から令和元年度までの伸び率(28%)を維持するため、前年度の目標値に128%を乗じた値」である。しかし、前年度の目標値に128%を乗じていくと、目標値がかなり大きな値となり、達成することが難しくなっているため、目標値の修正を承認。令和5年度上半期評価より反映する。

投稿件数 年間目標値: 令和元年度から令和3年度の前年度との伸び率の平均である124%を、前年度の実績値に乗じた値

【評価委員会評価】

もーやっこネットワークシステムは県内でも早い段階から整備し、精力的に活動できている。今後、もーやっこネットワークシステムの登録患者数や登録医療機関・事業所数についても、頭打ちになってくると思われるため、第9期の計画策定時には現状を踏まえた目標値を設定するよう検討してほしい。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(4) 日常生活を支援する体制の整備

評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
⑧協議体開催数 ※年間合計	介護	3回	1回	1回	2回	A
		3月末までに目標値を達成する見込み。地域資源や地域ニーズについて検討することができた。				
⑨-1 生活支援コーディネーターによる地域のニーズ等把握件数 ※年間合計	介護 地域	60件 (*)	30件	39件	69件	A
		目標値を達成。市内の担い手に対し、事前にアンケートを行い、その結果をふまえて、実際に現場を訪問することができた。また、アンケートにより、市内の担い手が抱える課題を把握することができた。				
⑨-2 生活支援コーディネーターによる地域資源把握件数 ※年間合計		72件 (*)	44件	32件	76件	A
		目標値を達成。多くの地域資源を把握する中で、特に地域の企業との連携を深めた。				

(*) 令和4年度下半期から目標値修正

- ⑨-1 年間目標値 72件（6件/月）→
60件（5件/月）
- ⑨-2 年間目標値 96件（8件/月）→
72件（6件/月）

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

年間を通して、協議体と生活支援コーディネーターとの連携により、地域ニーズと地域資源の把握と共有が図られ、体制整備等の検討ができた。市内の担い手が抱える課題（運営者不足等）の対策や、生活支援コーディネーターの周知を令和5年度も継続していく。

評価委員会評価

生活支援コーディネーターによる地域のニーズ等把握件数、地域資源把握件数において、市内の担い手へのアンケート結果をふまえて現場へ赴き、ニーズを把握することができており、今後も実態が把握できるよう努めてほしい。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(5) 高齢者の住まいの安定的な確保

評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
⑩居住支援協議会を通じた住まいに関する相談件数とマッチング件数 ※年間合計	介護 住まい	50% (*)	44.44% (4/9件)	41.66% (5/12件)	42.86% (9/21件)	B
目標値は未達成。各支援機関と連携を取りながら、居住に限らず相談者に寄り添い対応できた。課題である死亡時の遺品整理等は、入居者に対し適切に説明をし、理解してもらう必要がある。						
⑪居住支援ケース検討会議開催数 ※年間合計	介護 住まい	5回	3回	3回	6回	A
目標値は達成。各支援機関との連携がスムーズになり、困難な事例にも対応できた。						
⑫介護サービス相談員派遣回数 (施設サービス) ※年間合計	介護	18回	14回	15回	29回	A
目標値は達成。介護サービス相談員を新たな施設や事業所に派遣できた。相談員が事業所の管理者や多くの利用者と同面談することができた。						

(*) 令和4年度下半期から目標値修正

⑩年間目標値 80%→50%

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

各支援機関と連携を取りながら、安定して事業が行えた。居住支援事業について、死亡時の遺品整理等の課題を把握した。介護サービス相談員派遣事業について、介護サービス相談員、事業所の管理者と担当部署の三者会議等を新たに実施できるようにしていくことで、担当部署は事業所のサービス改善や調整の橋渡しに努める。引き続き、高齢者の住まいの安定的な確保に努める。

評価委員会評価

居住支援協議会を通じた住まいに関する相談件数とマッチング件数において、困難なケースが多い中、9/21件は非常に高い数字である。

介護サービス相談員派遣回数において、年間目標値18回に対し、実績値29回と160%増となっている理由は、介護サービス相談員が1名から2名へ増員したこと、コロナ禍ではあったが事業所の訪問の受け入れが徐々に再開されたこと等を評価委員会で確認した。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

2 認知症施策の推進

評価項目	分野	年間 目標値	上半期 実績値	下半期 実績値	年間実績値	達成度
⑬医療・介護サービスにつながった割合（認知症初期集中支援チーム） ※累積値	介護	65%	60% (3/5件)	80% (4/5件)	80% (4/5件)	A
		目標値は達成。対応が困難なケースの検討が多くなっているが、医療・介護サービスにつなげることができた。				

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

目標値は達成。チーム員のスキルアップにより、包括支援センター内で解決できる症例が増えたことにより、認知症初期支援チームで対応する件数は減少しているものの、対応が困難なケースの検討が中心となる中、医療・介護につなげることができた。地域包括支援センターが報告しやすい体制を作るために、報告様式等の見直しを検討している。今後も認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築していく。

評価委員会評価

現時点で医療・介護につなげることができなかったケースは、包括支援センターでの見守りでの対応や、ご家族への支援等を行いながら、支援を継続していくことを評価委員会で確認した。地域包括支援センターのチーム員の研修等によるスキルアップにより、医療と看護と介護で相談するケースがスムーズに行えているという結果につながっていることは評価できる。

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
全体評価表（令和4年度下半期）

評価項目	総合評価
1 地域包括ケアシステムの深化・推進	
(1) 自立支援、介護予防・重度化防止の推進	B
(2) 介護給付等対象サービスの充実・強化	A
(3) 在宅医療の充実および在宅医療・ 介護連携を図るための体制の整備	B
(4) 日常生活を支援する体制の整備	A
(5) 高齢者の住まいの安定的な確保	A
2 認知症施策の推進	
認知症施策の推進	A

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

全体評価
A

担当部署評価

令和4年度下半期においては、過半数の項目で達成が得られた。
令和3年度と比較すると、感染状況に左右されずに事業が実施できた。また、関係する機関との連携をとり、多角的に支援する事業が増えている。事業を安定して行っている中で見えてきた課題に、令和5年度は取り組んでいく。

評価委員会評価

新型コロナウイルスの影響が大きい中、事業を実施することができている。全体評価が「A」で終わることができ、関係される方々の努力がみられる。自助、共助についても、市民と行政とが意見交換をしながら、運営できるようにしてほしい。
見えてきた課題を、第9期につなげていけるようにしてほしい。